

『明日を拓く』活用事例2

－「赤ちゃんポスト」を活用した「保健」の授業実践－

愛知県立松平高等学校 教諭 松宮 博

1 はじめに

道德教育の充実に向けて、人間としての在り方生き方に関する教育を、学校の教育活動全体を通じて行うことが求められている。また、各学校における道德教育の目標に照らし、学校の特色を生かした道德教育を行うことも重要である。

一方で、小学校・中学校においては道德の時間があり、『明るい人生』『私たちの道德』のような教材も用意されているが、高等学校においては各教科等の時間の中で指導をすることから、必ずしも道德教育を行うという意識が高いとは言えない。

こうした中、平成25年に愛知県教育委員会から『明日を拓く－人間としての在り方生き方を求めて－』（以下、『明日を拓く』とする）が発行された。これを活用することにより道德教育への意識の高まりが期待される。今回この中から「赤ちゃんポスト」を教材として活用し、赤ちゃんポストの是非やこれからの在り方について考え、生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重することをねらいとした道德教育の指導を実践した。

2 生徒の実態

本校は豊田市中心部から約5km東部の山間部に位置しており、清流巴川を眼前にし、緑に囲まれ、鶯、ホトトギスなどの声を楽しめる自然豊かな環境にある。昭和24年愛知県立加茂高等学校松平分校として開校し、以来67年がたち、卒業生も1万人を越え地域のさまざまな分野で活躍をしている。各学年普通科4クラス、生活情報科1クラスの計15クラスで、全校生徒数593人の中規模校である。生徒の進路は就職6割、進学4割である。校訓「努力・忍耐・節度」の下、知・徳・体の調和がとれた青年を育成するため、日々の教育活動が行われている。

生徒は素直で落ち着いており、部活動、各種行事、地域貢献の活動等も活発で活力もある。今後は自主性や主体性を育み、さらなる一步を踏み出すことが目標である。

3 実践のねらい

保健の授業では、第2学年で「避妊法と人工妊娠中絶」という単元を扱う。教科書には「中絶をおこなうということは新しい生命の芽をつむことを意味し、大きな問題である。しかし、中絶をせずに出産するというのも、妊娠した女性や周囲の人びとの人生設計を大きく変えてしまうことを意味する」という記述があり、この問題について、自分の問題として考えさせたいと思った。人工妊娠中絶の是非を真剣に考える中で、命の尊厳に思い至ることが可能だと考えたからである。

そこで、この問題について深く掘り下げるために、『明日を拓く』の教材「赤ちゃんポスト」を教材として活用した。授業の中で、赤ちゃんポストの是非やこれからの在り方について考えることを通して、

「生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する」姿勢を養う道徳教育の授業を目指した。

4 実施の方法

(1) 対象と実施時期

2年1組(35名), 平成27年7月

(2) 教育課程上の位置付け

保健体育科, 「保健」(1単位)にて実施

(3) 『明日を拓く』から使用する教材

第3節 社会と関わる 「赤ちゃんポスト」

(4) 展開の工夫

最初に「人工妊娠中絶は是か非かあなたの考えを述べなさい」というテーマのレポートを書かせ、その後、「赤ちゃんポスト」を教材として、命の尊厳について考えさせた。

まず、赤ちゃんポストとは何かを理解させ、「赤ちゃんポスト」のワークシートを利用して、赤ちゃんポストの是非やこれからの在り方についてグループで話し合いをさせた。話し合いを通して、生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重することについて考えさせた。

5 指導の展開

(1) 単元名 避妊法と人工妊娠中絶

(2) 教科書 最新高等保健体育(大修館書店)

(3) 単元の目標

【教科の視点】

- ・家族計画の意義と適切な避妊法について理解できる。
- ・人工妊娠中絶が女性の心身に及ぼす影響について正しい行動選択を考える。

【道徳の視点】

- ・生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。

1 時限	学習活動(生徒)	指導上の留意点(教員)	参考
導入 (10分)	1 人工妊娠中絶は、女性にとって大きな負担になることを理解する。 2 人工妊娠中絶の是非について考える。	○教科書 P72 の「中絶をおこなうということは新しい生命の芽をつむことを意味し、それは本当に大きな問題です。しかし、中絶をせずに出産するということも、妊娠した女性や周囲の人びとの人生設計を大きく変えてしまうことを意味します」という記述を読み、人工妊娠中絶の是非について問いかける。 ○生徒の考えを誘導する発言を避けるように留意する。	

展開 (35分)	1 「人工妊娠中絶は是か非かあなたの考えを述べなさい」というテーマのレポートを書く。	○自分がもしそのような立場になったらどう考えるのかを想像して書くよう指示する。 ○難しく考えず、今の自分の考えを素直に表現するよう指示する。 ○机間指導を行い、生徒の取組状況を確認する。	
まとめ (5分)	1 レポートを提出する。 2 次時の内容を理解する。	○取組状況を評価する。 ○次時、結果を示し、命の尊厳について考えることを伝える。	

2時限	学習活動（生徒）	指導上の留意点（教員）	参考
導入 (10分)	1 レポート「人工妊娠中絶は是か非か」の結果を知る。 2 「赤ちゃんポスト」とは何かを理解する。	○結果を示すのみで、是非を言及しないよう留意する。 ○教材を用いて分かりやすく説明する。 ○命の尊厳を考えることがテーマであることを理解させる。 ○グループとしての意見を発表することを原則とするが、まとまらない場合は、出た意見を発表するだけでもよいこととする。 ○意見を否定するような話し合いにならないようにさせる。	『明日を拓く』より「赤ちゃんポスト」を、ワークシートも含めて使用する。
展開 (35分)	1 「赤ちゃんポスト」ワークシートに取り組む。 2 6グループに分かれ、意見を出し合う。 3 出てきた意見を1グループ2分ほどで発表する。		
まとめ (5分)	1 さまざまな意見に触れることで、自分の考えを更に深める。	○「赤ちゃんポスト」の是非ではなく、命の尊厳について考えさせることに留意する。	

6 実践のまとめと考察

(1) 人工妊娠中絶の是非に関して

「人工妊娠中絶は是か非かあなたの考えを述べなさい」というテーマのレポートでは、生徒の意見は以下のとおりであった。

【生徒A, 原文のまま】

私は、是だと思う。興味本位や性的欲求を優先させてしまったり、誤った避妊法を信じたりして、妊娠させたのならば、その二人の判断は良くなかったと思う。しかし、その望まない妊娠してしまった時に、そのまま産もうとすると経済面や環境面で、育児を放棄したり、家族や友達に影響すると思う。また、育児のためにお金がなく、育てる場がなかったりし、産まれてくる子に、かなり辛い思いをさせることになると思う。また、強制的に妊娠させられた人は、実際に子どもを必要としない場合や、もしかしたら知らない人との子の場合もあるため、その子どもを産み育てるとなると、精神的、経済的、身体的などに悪影響を及ぼす可能性もあります。

新たな生命の芽を絶つというのはあってはいけないことだが、母体やその家族などの環境面、経済面を考えれば言い方は悪いけど、仕方がないことだと思う。よって、人工妊娠中絶は、是である。

【生徒B，原文のまま】

私は、非です。いくら学生だからとか、経済的にきびしいからといって、せっかくの命を無駄にするのは良くないと思います。

授かりものだし、本当に子どもが欲しいのに出来ない人のことを考えたら、育てられないなら、産んで養子縁組するとか、色々方法はあると思うし、妊娠 22 週未満だからといっても、命に変わりはないと思います。

だから、人工妊娠中絶をすることは、犯罪に等しいと思うし、全て親の責任だから、ちゃんと命として残してあげるべきだと思います。だから私は反対です。

全体では「是」が 18 名、「非」が 17 名でほぼ半々であった。「是」の理由が多かったものは、以下のとおりである。

- ・産んでも幸せになれない、普通の生活は送れないから。
- ・きちんと育てられないから。
- ・DVや育児放棄につながるから。
- ・レイプなどで強制的に妊娠させられた場合には必要だから。

一方、「非」の理由が多かったものは以下のとおりである。

- ・命を奪うことだから。
- ・女性の負担が大きすぎるから。
- ・子どもにも生きる権利があるから。
- ・子どもが欲しくてもできない人のことを考えるとできないから。
- ・養子縁組などの方法もあるから。

このように是非は半々だったが、男女別に見ると、女子は 15 名中 14 名が非であった。子どもを産む性であることは、命の尊厳を考えるときに重要な要素となるのではないかと考えさせられる結果であった。男子生徒に対しては、無責任な行動選択をしないような指導が重要であると感じた。

生徒にこの結果を示し、命の尊厳を考えることの動機付けを高めた。

(2) 赤ちゃんポストの是非に関して

赤ちゃんポストの是非については、「是」が 33 名、「非」が 2 名であった。「是」の理由が多かったものは以下のとおりである。

- ・命をつなぐことができるから。
- ・子どもが欲しくてもできない人に育ててもらえるから。
- ・道端に捨てられるより幸せだから。

「是」とした反面、障害をもっている子を預ける割合が多いことには、疑問を呈する意見が多かった。

一方、「非」の理由は以下のとおりである。

- ・産んだらきちんと育てるべき。
- ・障害のある子を預けるということから反対。

赤ちゃんポストに預けられ育った子に対して、将来出自を伝えるかについては「伝える」が 33 名、「伝えない」が 2 名であった、理由として、子どもにも知る権利がある。命の重みや家族の大切さが分かる。血のつながりより育ててくれたことを感謝すると思うから等、肯定的な意見が多かった。ただし、伝える時期についてはしっかりと理解してもらうためにも高校生以後に伝えるという意見が多かった。

このように、「赤ちゃんポスト」は肯定的な意見が大勢を占めた。

7 成果と課題

上記のとおり、人工妊娠中絶の是非においては半々であったのに対し、赤ちゃんポストの是非についてはほとんどの生徒が「是」との意見であった。また、グループ討議において全てのグループが「是」とした。

無論、「是」と答えた生徒が生命を尊重する姿勢をもち、「非」と答えた生徒がその姿勢に欠けるというわけでは決してない。子どもを産んだら育てるのが当然であるし、親としての責任を放棄することを認めることになるから等、命の尊厳を真剣に考えた上で、「非」という結論にしている。

大切なのは「是」か「非」かではなく、さまざまな考えに触れる中で生命の尊さについて考え、自分なりに理解し、その理解を少しずつ深くしながら、生命の尊さに対する思いを深めていくことであろう。人工妊娠中絶や赤ちゃんポストの存在を考える過程で「かけがえのない自他の生命を尊重する」という道徳的価値に対する理解は、ある程度深まったのではないかと感じた。

しかし、人工妊娠中絶や赤ちゃんポストは高校生にとって現実の問題として捉えにくい。そこで、赤ちゃんポストに関するさまざまな資料を提示したり、今回の取組だけでなく、調べ学習等の手法を用いたりするなど、深く掘り下げて考えることができる授業展開にする必要性を感じた。また、生徒の考えに対し本当にそれでよいのか、別の方法をもっと考えた方がよいのではないかと等、揺さぶりをかける問いを発し、命の尊厳に対する考えを更に深めさせる工夫が必要であると感じた。

参考文献

- 文部科学省『高等学校学習指導要領』平成 21 年 3 月公示
- 愛知県教育委員会『明日を拓く一人間としての在り方生き方を求めて―』平成 25 年 3 月